

平成 23 年 12 月 17 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 23 年 第 10 回講話

先ほどの代表幹事の挨拶をお聞きして感じたことを申します。

私の師匠の木内信胤先生は、息子さんが亡くなられる時に一晩中語り明かしたそうです。死後はどういうところに行くのか、亡くなる心構えといったことを一晩中語り明かして、信胤先生もほっとされ、息子さんも安らかに旅立ったという話をお聞きしたことを思い出しました。人の生死とは厳粛なものです。人が生死にかかわる時は、その方の人間力が大きく、深く、広くなっていききっかけになると思っています。

もう一つ代表幹事が「愛すること」について言っておられました。前回は申しましたが、「愛」という文字は食べ物を人様に差し上げる行為が語源です。食べ物とは実際に食べられるものと、精神的な食べ物も含めると私は思っています。愛とは、精神的に・物質的に相手の生命を維持し向上させる為に差し上げる何ものか、と捉えています。

紹介書籍

今日ご紹介する本は、『拝啓ニッポン殿 デンマーク青年が見た日本の姿』です。書かれたのは、ピーター・ディヴィッド・ピーダーセンという方です。中斎塾顧問の木内孝さんが創られた会社イースクエアの社長をやっておられたのですが、体調を崩されて少し前に社長を下りられました。先日、ピーダーセンさんの個展に行きまして、その時に戴きました。デンマークの青年が日本という国を見た時に、我々がごく当たり前に考えているものがどのように映るのか、色々と興味深い内容でしたのでご紹介します。

それから「孔子の教え」という映画を見てきましたので、パンフレットを回覧致します。ちなみに論語には色気がありませんが、映画の中では南子という女性が登場しています。衛の靈公の夫人で淫乱な噂のある女性です。

もう一つ、後半に干支の話を致しますので、60年前の昭和27年頃の状況が出ている写真集「決定版昭和史S26～30年」(毎日新聞社)です。前回もご紹介しましたが、もう一度回覧します。60年前はちょうど吉田茂さんが総理大臣として絶頂で、その勢いがだんだん下りつつある頃です。7年2ヶ月の在任期間中に色々な問題が起きています。食べ物が非常に

少ないのでデモが頻発しストライキが起きるという状況で、血のメーデーでは千数百人が重軽傷を負い、死者が2名出ています。昨日、鉄砲洲神社の詩吟がありましたが、皆さん当事をご存知の年代ですから、「血のメーデーの時は身体中が震えて怖かった」と言っておられました。

もう一つ、先日、大野参与から戴いたコピーを回覧します。内容は、北海道大学地震火山研究観測センターから出している情報によると、3.11の地震の時の波形と同じような波形が北海道と東北と東京で見られ、来年の1月から2月くらいに同じようなレベルの地震が起きる恐れがあるというものです。

今年一年を振り返って・・・

では、恒例の質問を致します。

中斎塾フォーラムでは、日常生活で嘘をつかないようにしましょう、これが生きる上での大きな判断基準であると考えます。嘘をつかないというのは、中斎塾フォーラムの基本哲学にも繋がっています。

今日は今年最後の例会ですので、一年間を大まかに思い出して下さい。

今年一年間、嘘をつくことが少なかった方？

リップサービスは誰でもしますから、そういうのは意識の外に飛ばしてよろしい。手を挙げなかった方は、ぜひ来年は嘘をほとんどつかなかったという一年にして戴きたいと思えます。嘘をつかないことを繰り返していくと、朝起きた時に目覚めが良いし、体調が良い一日が送れます。それが日々続けばよいですね。

今年一年間（震災もありましたから個人的に結構です）、良い一年を過ごせたと思う方？

今年一年間、有難うと言ひ、有難うとよく言われた方？

不思議なもので、手を挙げることによって心に残ります。今年は良い年だったな、有難うと言われたな・・・ということが心に残ると、何度も何度も寝ている間に反復します。私は解決しなければならない問題があると、脳みそに「私はこれから寝るけれども、私が抱えている問題を一晩中考えて、明日目覚めたら答えをちゃんと出しておくれ！」と言って寝ます。寝ている間も心臓は休まず動きますから、脳も休まずに働いてくれています。すると面白いことに、翌朝、小さな問題ならば大概解決策が出ています。ポイントは寝る時に「脳みそ君！私はあなたの活動を信じているから、解決策を生み出しておくれ」と言って、信じて寝ることです。信じないと出ません。自分自身を信じられるかどうかです。

今年一年間、自分なりの健康法を実践した方？

今朝も私は風呂場で30分くらい健康法を実践してきました。是非ご自分にあった健康法を実践されるとよろしい。

健康法ではありませんが、夜寝る時にお勧めするのは、明日を過去形で考えることです。私は昨晚、“今日は北関東フォーラムでお話をして、色々な予定が全部出来てやれやれ良かったな...”とイメージ出来たので、ゆっくり眠りました。明日の夜に満ち足りた状態で眠る自分の姿が想像できれば、明日を過去形で見たということになります。これは阿頼耶識というものの考え方、又は潜在意識の活用になります。これを繰り返していくと、自分で気が付いていない自分自身のエネルギー、パワーが無意識のうちに発揮できるというものの考え方です。人生成功の秘訣として、西洋でもポールマイヤーやカーネギーといった方によって提唱されています。その出だしが、明日を過去形で考えるということです。

本日の論語

では論語の説明に入ります。本日は、子罕第九 7~12です。

何度も申しますが、論語を読んで、一つでもこれは良いなと思う言葉を見つけられたら合格です。声を出して読むとイメージが浮かびやすいので、黙読よりは声を出して読んでください。尚且つ、映画の1シーンを見るような感じで素読が出来るようになれば、文句はありません。

【七】 子曰く、吾知る有らんや。知る無きなり。鄙夫有り、我に問うに空空如たり。我其の尙端を叩きて竭くせり。

孔子が言うには、私を物知りだと言う人間がいるけれども、それは違う。名もない普通の人が私にくそ真面目に聞いてきたなら、私はその内容に対して始めから終わりまで問いただし、その人が充分満足するまで説明をしてやるだけのことだ。

孔子はこう言っていますが、箒にも棒にもかからない者にはいくら教えても伝わらないとも言っています。自分の幼馴染が道端に座っているのを孔子が見て、そのだらしないうちに怒って、持っていた杖で向う脛を叩いたという記録もあります。この鄙夫(名もない普通の人)はよほど熱心だったのでしょう。一所懸命教わりたいという気持ちが孔子に伝わったから、こういう言い方をしたのでしょう。

【八】 子曰く、鳳鳥至らず、河図を出さず。吾已んぬるかな。

鳳鳥は伝説のおおとり。河は黄河です。黄河から図（神秘的なものが描いてある巻物）を背中に背負って大きな亀が浮かび上がるという、どちらも瑞兆（素晴らしく良い事が起きる前触れ）です。

孔子が言うには、鳳鳥は舞い降りてこない。大亀も出てこなかった。そういう奇跡が起きると素晴らしい王様が出現すると伝わっているけれども、その奇跡が起きない。素晴らしい王様も出ないので、私は実力を発揮することが出来ない。私の人生もここら辺で終わりだな。

孔子が少し諦めてがっかりしているところです。

論語を読むと、孔子は愚痴もこぼすし、自慢もするし、軽口も叩く、結構面白い人格だったのだと分かります。そこが論語の面白いところです。私がイメージする孔子は、フーテンの寅さんが衣装を着けて、そこに学問が加わったような人物です。体格も良くて力持ちで頭が良いのだけれども、フーテンの寅さんのような面白い調子が垣間見える。先ほどご紹介した映画の中の孔子は全くそういう部分はありませんでしたが、皆さんそれぞれの孔子像を想像すれば良いと思います。

では、「鳳鳥至らず、河 図を出さず」の論語を、現代に活かした形で見てみましょう。

論語は内容を読むのと同時に、必ず現代に置き換えてみるようお願いしています。現代に置き換えないと、昔の人は良いことを言ったな...で終わってしまいます。

孔子は奇跡が起きないから、私は駄目だと言っています。今の時代、素晴らしい政治家や財界人が出てくる瑞兆があるのかどうか。奇跡とは滅多に起きない素晴らしいこと、或いは滅多に起きない酷いことと捉えた時に、3・11の大震災が起きたということは、日本が根底から変わる素晴らしいきっかけを持ったと受け止めればよいと思っています。ですから3・11の大震災を、大変だ・困ったというだけではなく、世界に先駆けて日本が素晴らしい力を持つ大きなチャンスが降りかかって来たのだと捉えればよい。

最近、新聞等を見ていると、「3・11によって私はこう変わった」、「私は前向きに新しい人生を歩み始めた」という記事が増えてきています。日本人というのは、大したものだと思います。ということは世界から見ても、日本人は大したものだと思われるようになってきているわけです。

文明法則史学でいえば、世界は今、西洋文明が没落し、次に東洋文明が勃興する転換期にあります。大きな文明は800年周期で生まれ・盛り上がり・衰退期に入り、200年くらい

の転換期を経て次の新しい文明が始まる。そういう大きな流れがあると解説しています。

西洋文明が終わり次に東洋文明が新しく生まれる、そのさきがけをなすものが日本の大震災であると思います。大震災に対して日本人がどう動いたか、諸々を成功裏に導くことによって、日本が意図しようがしまいが世界を牽引していく、そういうめぐり合わせに日本は今置かれています。

【九】 子 齊衰の者と冕衣裳の者と瞽者と見るに、之を見れば少しと雖も必ず作つ。之を過ぐれば必ず趨る。

齊衰は喪服。冕衣裳は高官の礼服。瞽者とは世襲の音楽師で、音楽に携わる人は盲目の方が良いとされていて、自分で目を潰していたようです。

孔子はそういう人たちを見た時には、相手が若くても必ず立ち上がり、前を通り過ぎる時には敬意をはらって小走りをしました。

敬意を払うべき人たちがいれば、敬意を払うのが当たり前だということです。今の時代、親や先生に対しても敬意を払わない人が多いので困ったものです。また、敬意をはらう相手が少なすぎるのも問題です。私は師匠の木内信胤先生の前に立つと自然と背筋が伸びて、直立不動で「はい」となりました。自分の周りに、自然と敬意をはらうような相手がいれば素晴らしい人生を送れると思います。そういう人がいなければ探しましょう。

【十】 顔淵 喟然として歎じて曰く、之を仰げば弥高く、之を鑽れば弥堅し。之を瞻れば前に在り。忍焉として後に在り。夫子循循然として善く人を誘く。我を博むるに文を以てし、我を約するに礼を以てす。罷めんと欲すれども能わず。既に吾が才を竭くせり。立つ所有りて卓爾たるが如し。之に従わんと欲すと雖も、由未きのみと。

顔淵がため息をついて言いました。

先生を仰ぎみれば非常に高い峰のようにそびえるし、斬り込もうと思っても鋼のようにはじかれてしまう。先生が前にいると思っていると、突如後ろにおられる。先生は順序立てて分かりやすく人さまを導かれた。私の視野を広げようと詩書をもって教え、礼を実習しながら色々な知識を整理させてくださった。素晴らしい先生である。私は学問を途中でやめようと思っても、やめることができない。自分の能力を全部出し尽くしたけれども、先生のおられるところはいよいよ高くそびえていて到達することは出来ない。先生の教え

に従おうと思って努力するけれども手段が分からない。

顔淵は秀才で孔子の第一の弟子です。この部分は、やはり師匠が要ということです。佐藤一斎は『言志録』のなかで、「太上は天を師とし、其の次は人を師とし、其の次は経を師とす。」と記しています。天地自然を師匠にすることが出来れば、最高の人生が送れる。その次は素晴らしい師匠、三番目は素晴らしい書物であると言っています。我が師匠と認められる人物を見つけられるかどうか、人生の勝負のポイントです。

【十一】 子の疾^{やまい}病^{へい}なり。子路^{しろう}門人^{もんじん}をして臣^{しん}為^たらしむ。病^{へい}間^{かん}にして曰^{いわ}く、久^{ひさ}しきかな、由^{ゆう}の詐^さを行^{おこな}うこと。臣^{しん}無^なくして臣^{しん}有^ありと為^なす。吾^{われ}誰^{たれ}をか欺^{あざむ}かん。天^{てん}を欺^{あざむ}かんや。且^{かつ}つ予^よ其^その臣^{しん}の手^てに死^しなん与^よりは、無^む寧^{じょう}二三四^{にさんし}の手^てに死^しなんか。且^{かつ}つ予^よ縦^{たつ}い大^{たい}葬^{そう}を得^えずとも、予^{われ}道^{どう}路^ろに死^しなんやと。

孔子が重体に陥ったので、子路が門人を家臣と偽って先生の周りに手配した。

孔子が少しよくなって、子路に言いました。

「お前が周りの人間をだますのは昔からよくやっていたけれども、今でも変わらないな。魯国の大臣の頃には家臣がいたけれども、今は私に家臣がいないことを誰もが知っている。家臣がいるようにふるまって、私に誰を騙そうとさせるのか、天を騙そうとでもさせるのかね。そんなことはとんでもない。私は偽りの家臣の手で葬式を出してもらうよりは、門人たちに葬式を出してもらいたい。また、立派な葬式を出してもらえなくても、野垂れ死にすることはなかるよ。」

孔子が弟子に、自分のお葬式をどういうようにしてもらいたいと言っています。

ちなみに今は、孤独死をする人が多い。この前テレビで見ましたが、孤独死を心配する一人暮らしの老人が、自分の死んだ後の始末をするのにいくらかかるか業者に見積りをとったところ、28万5千円ということでした。自分が死ぬ時にそれだけのお金を残せば、人さまに迷惑をかけないで片づけをしてもらえようです。

【十二】 子貢^{しこう}曰^{いわ}く、斯^{こゝ}に美^び玉^{ぎよく}有^あり。匱^{くわい}に韞^{こん}めて諸^{しよ}を蔵^{そう}せんか。善^{ぜん}賈^かを求^{もと}めて諸^{しよ}を沽^{かう}らんかと。子^し曰^{いわ}く、之^{これ}を沽^{かう}らんかな。之^{これ}を沽^{かう}らんかな。我^{われ}は賈^かを待^{まち}つ者^{もの}なりと。

子貢は頭がよくて金儲けの才があるお弟子さんです。

その子貢が、孔子を美玉に譬えて聞きました。

「先生はこのような放浪生活をしながら、何処かに仕官して実力を発揮しようとしておられます。美玉を箱にしまっておくのですか、それとも良い値をつけて売ろうとしているのですか」

孔子が答えました。

「何としても売りたいと思っているよ。私は良い買い手を待っているのだ。」

今の時代、自分を売り出したいと思ったら、自分からどんどん発信すべきです。孔子の時代よりはるかに良い手段が沢山ありますので、人脈をどんどん広げるとよろしいと思います。

干支から見る平成 24 年

来年の干支は壬辰（じんしん・みずのえたつ）です。

「壬」は、孕む（お腹が大きくなる）、おもねる、へつらうという意味です。「辰」は、大はまぐり、蜃気楼の意味もあります。来年は辰年、龍が天に昇って非常に良い年だと世間では言うでしょう。それはそれで良いと思いますが、龍は想像上の動物ですから、実体がないと思えば蜃気楼とも捉えられます。「壬辰」という文字から考えると、来年は色々良さそうな話が沢山出てくるけれども皆、蜃気楼で消えてしまう。想像妊娠のような年です。ですから淡い期待をかけない方がよいと読めます。

私の解釈を申しますと、来年はどぶ泥の沼に浸かって、ずぶずぶと沈んでいく。沈んでいることをどこかでハッと気が付く年です。気が付かなければ沈み続けて死んでしまいます。今、自分が沈んでいるということを足首あたりで感じたなら、結構動きやすいと思います。腰まで浸かっているとちょっと苦しい。肩まで浸かってしまうと身動きがとれません。鼻の辺りまで浸かってしまうと、ちょっとした加減で死んでしまいます。こういうめぐり合わせです。

干支学から考えましょう。安岡干支学は 60 年周期で見ます。60 年前の昭和 27 年はどういう時代だったか。先ほども申し上げたように、デモが盛んで、「汝臣民飢えて死ね、朕はたらふく食っておるぞ」というプラカードを作ってデモをしているという事が記録されています。5 月 1 日の血のメーデーでは、千数百人の重軽傷者が出て、警察官の発砲で亡くなった方が 2 名出ています。日本各地でデモが起き、ストライキが起きていた大変な時代でした。

来年は、それがまた繰り返されて起きる年だと考えています。その要因は何か……。今日の新聞に来年の予算が出ていました。税収が42兆円で、支出が92兆、国債が44兆という書き方をしていましたが、全くふざけた話です。足りない分はあちこちから財源をかき集めて、5兆円くらい捻くり出す。今年は厚労省が年金積立金を流用しようと、厚労省と財務省とで綱引き合戦をしているというような記事でした。

新聞記事になってしまうと、何となく尤もらしく聞こえます。今回の政府の予算……。復興財源は別で92兆円の支出を予定している。それを賄うために税収は42兆、国債発行は44兆円に収めたい、その他の財源については各省庁間で折衝して、何とか隠し財源を捻り出す……。これだけ聞いていると、“ふーん、日本の国はそうやって回っているのか”と納得してしまいます。しかしこれを家庭に置き換えてみましょう。42万円の収入の人が、生活するのに92万円かかる。足りない分は44万円借金して、それでも足りないから奥さんにへそくりを出させて帳尻を合わせる。42万円しか稼げないのに、92万円使おうというのが根本的に間違いなのです。

来年は、どぶ泥に沈んでいることを実感する年です。今年は予行演習でした。大震災の後、食べ物が無くなった。ガソリンも無くなった。電気が使えなくなった。3万人弱の人が亡くなりましたが、これも予行演習だと思っています。本来は30万人ぐらいは死ぬ、そういうめぐり合わせだと思っていますので、来年何か起きた時には相当な人数が死ぬであろうと思っています。

時事評論

今年の初め、新聞を読む時に意識して戴きたい3つのキーワードを申しました。来年も同じです。

- 1、民主党が打つ無様な手を見る。そして自分なりに分析すること。
- 2、国債の動向をよく見ていくこと。
- 3、どんな災害が起きるか注意すること。

この三つを注意して、お過ごし戴ければよいと思っています。

民主党の打つ無様な手は、先ほど申しましたように、もうお金がないのです。42兆円しかお金が入ってこないのに、なぜ92兆円も使うのですか。国会議員の数を減らして、給料も減らすべきです。格好だけはやりました。法律を作って出したけれども、通さないのですから無様にもほどがありません。自分の身を削らないで、誰が削りますか。日本の国の予算をきちんと作り、削るものを削るべきであるのに、自分たちだけは温存してなぜ国民に犠牲を強いるのでしょうか。そういう声がどんどん大きくなってきています。

60年前と同じように、来年は日本国内で大きめのデモやストライキがいくつも生まれると思います。きっかけは色々あります。例えば税金、今は増税路線まっしぐらです。新聞はそのために使われているのかと思うほど載せています。富裕税に関していえば、昔は金持ちから70%とか75%取ったと書いてありました。終戦直後は90%でした。税金を9割もとられたら、どうやって生活するのですか。あの松下幸之助さんは日本一の税金の滞納王でした。というのは、日本政府が松下幸之助さんに軍需産業としての仕事を発注し、船や飛行機を作らせておいて、敗戦になったからお金を払わない、しかし税金は払いなさいというのですから、とんでもない話です。

終戦直後、一般の国民は持っているお金を銀行に無理やり預けさせられて、下ろせなくなりしました。金持ちには最高で90%以上の税金を課して、巻き上げ終わった後に、ようやく国民は凍結されたお金が下ろせるようになりしました。しかし、その時同時にデノミネーションをしましたから、一生涯遊んで暮らせるような金額でも1ヶ月で使い切ってしまうような価値になってしまいました。通貨価値の下落です。

これがわずか60数年前に日本で起きた出来事です。来年以降、同じようなことが始まる。その第一歩が、私は来年だと思っています。ですから覚悟を決めましょう。来年の3月24日の創立5周年記念式典でも、「覚悟を決めましょう」と題してお話をさせて戴くつもりです。

では、来年、泥沼に沈まないための命綱は何か。先ほど、3.11の大震災は予行演習と申しました。大震災直後の生活がこれから始まると思ったらよろしい。

電気はしょっちゅう節電で止まります。電気が止まって当たり前の時代に入ります。もともと日本のように電気がずっと点いていて、たまにパッと消えてもすぐに点くような国は珍しいのです。他の国では、停電したら半日や一日電気が点かないのは当たり前です。

ガスはどうでしょうか。プロパンガスは既にある分は使えますが、備蓄がなければ駄目です。ということは火を確保する為に、薪もそうですが何等かの手立てをしておくべきです。

水道は止まるといった方がよいでしょう。震災後の東京の水道は、発がん性物質が出たという報道がありました。そうなったら誰がパフォーマンスをしようが、安心して飲めません。水の確保も必要ですし、井戸を掘れる人は掘った方がよいでしょう。

電気・ガス・水道といったライフラインが壊れるということは、来年即座に始まるわけではありません。そういう時代が来ると想定して、ここ1、2年の間に少しずつ準備をするとうよろしい。その始まりが来年だと申し上げています。マスコミ等がそういうことを騒ぎ

出すのは数年先だと思えます。我々は来年から手をつければよい。壬辰はそのスタートの年だと思っています。

ガソリンに関しては、これからどんどん供給減になってきます。石油が順調に日本に供給されるとは限りません。歴史は繰り返すと云います。日本が戦争に突入した最大の理由は、日本に石油を輸出しないという包囲網を作られたために、戦争を起こさざるを得なかったのです。真珠湾を忘れるなという話がアメリカにあります。真珠湾を日本が攻撃したのはアメリカが日本の石油を止めたからで、戦争を始めさせるようにアメリカが誘導したのだという資料が見つかって、アメリカの学者が発表し始めています。それほど石油というのは貴重で大変な戦略物資なのです。ガソリンも来年以降は危ないと思っていますので、ガソリンに頼らない移動手段、例えば電気自動車なども考えておくべきでしょう。

これから大いに期待されるのは、太陽熱・地熱・水力・風力といった自然のエネルギーです。自然にあるものを利用してエネルギーを起こす時代の幕開けが来年だと思えます。

食べ物に関してはどうか。終戦直後、銀座の柳を引っっこ抜いて、そこに野菜を植えて食べた。60 数年前、そういう時代があったのです。少しの土地でも活用して、芋などを作ることをお勧めします。とにかく食べ物を自給自足する。もしくは農家の人と親しくして、お米は常に供給してもらえるような手立てを講じる必要があります。

食べ物を外国からという手段もありますが、外国からの輸出は難しいでしょう。TPPの参加を巡って盛んに論議されていますが、TPPは進むも地獄・退くも地獄だと私は思います。野田首相はぬらりくらりと、“どじょう”でなく“鰻”のように動いています。そして上手な落とし所を探っていますが、これは党内だけの動きです。国内の目線で見ると、やはり失格ですし、世界全体の目線で見ても駄目です。

民主党の打つ無様な手は、日本国民をどぶ泥に落とすと思っています。どぶ泥に入ってもがき苦しむ中で命綱を掴むには・・・先ほど申しました電気・ガス・水道といったライフラインを自分たちの手で自給自足できるような動きを始められるかどうかです。始められたら、命綱を一つ作ったとお考えいただければよい。

次に国債ですが、国債は売れなくなります。今、国債が売れているというのは、世界の七不思議の一つだと思えます。国債未達とか国債未消化という話になれば、色々と紆余曲折があっても、日本にハイパーインフレが起きます。ハイパーインフレとは、先ほど申しましたスタグフレーションの行き着くところです。100円で買ったパンが、明日は1000円、明後日は1万円、ひと月たったら100万円という類のインフレです。日本も終戦直後はハイパーとまで行かないまでも、それに近いインフレが起きています。

ですから、国債の動向を十分注意しておく必要があると言っています。日本の国債未消化の前に、アメリカが未消化になるという話が結構出ています。アメリカの国債が売れなくなるのと日本の国債が売れなくなるのとどちらが早いかというもので、同じ土俵で勝負しているようなものです。番外で今、ユーロ圏が別の大きな土俵で相撲をとっています。ギリシャもスペインもイタリアも大変なことになっています。軒並み先進国は駄目になっていますが、それは先ほど申し上げた、西洋文明がどんどん衰退期に入って滅亡していく真っ只中だという説明がぴったり当てはまります。文明が滅亡するのですから、通貨が下落して当たり前です。国がそれぞれデフォルトをしても当たり前です。日本もこれからデフォルト（踏み倒し）をせざるを得なくなります。徳政令などという話が噂されるようになると思います。

災害については、コピーを回覧しましたように、北海道・東北・東京で3.11と同じような地震の波形が出ていますので、起きるとしたら来年早々だろうと北海道大学地震火山研究観測センターのブログで発信されています。

強毒性の鳥の新型インフルエンザは、来年には、そろそろ来ると申し上げるようになると思っています。もう、人から人へと感染する寸前まで事態は進んでいるようです。ちなみに私の家は、手洗い・うがいを外で出来るように設備をしました。まだ実際にやっていませんが、来年は外で手洗い・うがいを実践しようと思っています。

自然災害・人災はやはり起きます。皆さんもそのための対応を怠らないようお願い申し上げて、本日は終了いたします。有難うございました。